

## 近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

地券請出詞訟證據物

被告之部

70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80

經濟學部  
研究室  
5  
1226



38511

明治八年十二月八日

元禄度取替一札

安永度上申書

天保度野村ヨリ差入一札

之寫

兵庫縣下茅二區

兵庫新在家町寄苗

高知縣士族

被書代人

中西 盾雄

元祿度穂谷尊延寺兩村ト取替書及ヒ安  
永度五ヶ村ヨリ大阪御番所へ差上候書  
類ノ寫

取替申一札ノ事

一津田藤阪杉穂谷尊延寺此五ヶ村立會山地論  
ノ儀今度於京都御奉行所被遂御會議右山年  
貢十七石六斗五升津田村高ニ結有之其上物  
成ハ五ヶ村家別ニ割付六十年余以來津田村  
へ取集候条津田村可為山本ノ旨蒙御裁許候  
立木下草ハ古来ヨリ五ヶ村立會ニ無紛候得  
共近年土砂苗ノ為立木伐候儀從 御公儀御  
停止木苗植候様ニト被 仰出候故其趣ヲ相



守リ只今ハ相互ニ立木伐不申銘々村勝手ニ  
 木苗ヲ植立土砂苗仕下草才刈申候向後立木  
 又ハ枝木ニテモ伐候様ニト 御公儀並御地  
 頭ヨリ御免被成候ハ、五ヶ村共一日ニ土砂  
 苗仕候村勝手ノ通り立合伐取可申候也之新  
 法成伐仕間敷候爲後々取替證文仍如件

元禄八年庚三月廿四日

津田村庄屋

穂谷村庄屋

彌次兵衛

小兵衛殿

羊左衛門

勘左衛門殿

源左衛門

羊奇久右衛門殿

羊奇五兵衛

日 新右衛門殿

日 瀬兵衛

日 次右衛門殿

日 安兵衛

日 九兵衛

日 長左衛門

乍恐以書付奉申上候

久具八十五郎棟知行所

河州交野郡津田村

永井筑前守棟知行所

日国日郡穗谷村

永井采女様知行所

日国日郡尊延寺村

右ノ村方先年元禄年中ノ比山地論有之候処京

都御奉行所松前伊豆守様御前ニテ御金議蒙  
御裁許相濟則相互ニ為取替證文仕双方共右ノ  
御裁許之趣ヲ守罷在候処此度大坂 御番所様  
ヨリ御廻文ニテ御觸被為 成候ニ付則五ヶ村  
立會相互ニ先歳ノ通為取替證文本紙寫奉差上  
候以上

安永三申午年

正月日

永井筑前守殿知行所

徳谷村庄屋

勘左衛門

日村日断

儀兵衛

日村年寄代

市左衛門

御役人中様

右之通立ヶ村立會申合之通相達無御座候ニ付  
加印仕候以上

久貝八十五郎様知行所

津田村庄屋

伴兵衛

日村日新

羊左衛門

日村年寄

市右衛門

日村日新

小左衛門

日村日新

彌次兵衛

富山藏部様知行所

津田村庄屋

源左衛門

日村羊寄

左右衛門

久具八十五郎掾知行所

藤坂村庄屋

藤重郎

日村羊寄

左右衛門

日村日断

喜兵衛

久具八十五郎掾知行所

杉村庄屋

久左衛門

日村羊寄

勇

藏

永井采女掾知行所

尊延寺村庄屋



孝右衛門

日村半寄

徳兵衛

取替申一札之事

一津田藤次杉穂谷尊延寺此五ヶ村立會山地論  
ノ儀云々文言前日断

元録八年庚三月廿四日

津田村庄屋

尊延寺村庄屋

彌次兵衛

十右衛門殿

半左衛門

半寄安右衛門殿

源左衛門

日利兵衛殿

半寄立兵衛



曰 甚右衛門殿

曰 瀨兵衛

曰 次兵衛殿

曰 安兵衛

曰 九兵衛

曰 長左衛門

乍恐以書付申上候

久貝八十五郎掾知行所

河川交野郡津田村

永井家前守掾知行所

曰 田口郡德右村

永井采女掾知行所

曰 田口郡尊延寺村

右之村方先歲元禄年中之頃山地斷有之候也云

、文言前口断

安永三甲午年

永升采女殿知行所

尊延寺村庄屋

孝右衛門

日村年寄

徳兵衛

御役人中掾

右之通五ヶ村立會申合之通相違無御座候二付  
加印仕候以上 久具八十五郎掾知行所

藤坂村庄屋

藤重郎

日村年寄

友右衛門

日村口断

喜兵衛

久貝八十五郎掾知行所

杉村庄屋

久左衛門

日村年寄

勇藏

永井筑前守掾知行所

穂谷村庄屋

勘左衛門

日村日断

儀兵衛

日村年寄代

市左衛門

久貝八十五郎掾知行所

津田村庄屋

伊兵衛

日村日断

半左衛門

日村羊寄

市左衛門

日村日断

小左衛門

日村日断

彌次兵衛

島山藏部掾知行所

津田村庄屋

源左衛門

日村羊寄

李右衛門

御役人中様

野村ヨリ穂谷村へ差入候一札ノ寫

差入申一札之事

一其御村方山内支配地ニテ焚柴ノ俟仕来リニ  
御座候处玄卯十月当村ノ者共多人數新規下  
芥及爭論此度津田村取唆ニ立入被下双方對  
談仕以来先規ノ通急度相守リ新規立入兼骨  
之俟致シ間敷候猶又小前未レ迄可申聞ス候  
依而一札如件

天保拾五年

野村百世代

辰六日

伊右衛門

日村年寄

彦右衛門

日村庄屋

吉右衛門

穂谷村

御役人中掾

右寫差上候掾被仰付候ニ付差上申候以上

明治八年十二月八日

兵庫縣下弟二區

兵庫新在家町寄留

高石縣士族

被告代理人 中西自雄



目錄附事由略辨

甲

一山及畝步改帖

尊延寺村

抑此帖面ノ有ル所以ニ即元各村別區所有ニシテ又其村内ニ放テ各人民所有シタル村アリシカ故ナリ

右帖面ハ尊延寺村ニ在テ寶曆度ニ改メタル者ナルカ  
改トアルヲ以テ往古ヨリ此帖面有リシトニ知ルベシ

乙

一山地讓渡証書

中ニ津田村ノ者所有セシモノアリ  
現今ハ不燃  
 此分ハ乃根元津田村ノ者尊延寺村ノ者ヨ  
 リ譲受ルノ理アラシヤ若又譲リ受タルモ  
 ノニ非入シテ往古ヨリ持傳ヘタルモノナ  
 ルモ何リ其有山ノ裁分ヲ私有スルヲ得  
 シヤ

此山地讓渡賣買爲タル事ノ有リシハ前条

丙

ニ云ヘルカ如リ各人民別區所有シタルモ  
 ノアリシカ故ナリ但此峯ル所ノ外ニ放テ  
 猶証書多枚アレ共ニ三ヲ以テ見ルニ是カ  
 故ニ峯ケス

樹木伐取

石割取 願書

土堀取

丁

一 樹木伐取

石割取

願許可申渡書

是ハ各村ニ於テ已レカ所有ノ山内ヨリ  
 取ルモノナレバ即チ之ヲ取ル上ニ於テ  
 ハ全ク自由ナリトイヘ凡テ石割ノ事ニ  
 係ルカ故ニ出頭シテ許可ヲ請ケルヲ得  
 可ルヲ以テ此願ハ為セルナリ若シ石割  
 ノ事有ルニ非レハ毫モ管割セラル

ナク全ク自由ニテス可シ即此願ヲナスヤ  
 各村独自ニ之ヲ為シ從而許可申渡亦直達  
 ナリ

且其領文中ニ於テ某云々持山ニ於テ或ハ  
 当村山内云々ト有之許可申渡書ニモ其  
 村百姓云々於持山ニ或ハ其村山内又ハ其  
 方共村領山内等ノ文明ヲ載セラレタリ  
 五ヶ村共有ニ係ル山内ノ分ハ即五ヶ村ヨ

戊

リ願出セリ

一土研留一札

是ハ各自村所有山ナルカ故ニ其山ニ就テ  
当サニ為サ、ル可カラテルノ義務タルヲ  
以テ此申付ヲ受テ此責任ヲ負ヒシモノナ  
リ

巳

一山内ニ係ル職務器失説一札

此説一札ヲ出セルモノハ其村役ニ責任ア

ルヲ以テナリ其責任ハ即一村所有支配ノ  
権ニ基ク所ナリ

且其文中ニ松木抜伐仕度旨夫ハ山持共申  
之云々ノ明文アリ

其并ニノ書ハ甲村ノ者乙村ノ山中ニ於テ  
不埒ナルヲ有テ譴責セラレタルモノナレ  
共文中ニ隣村尊延寺領字惣谷ト有之同ヨ  
リ各村別區所有ナルヲ故甲村ヨリモ如此

書タルヲ見ルヘキナリ

庚ノ一 土砂方御達書

是各村へ直ニ廻達セラレタリ即各村所有支配ノ権有テ其義務ヲ尽スモノナレハナリ

庚ノ二 一土砂面勘所又石高届

是土砂方取調ノ為各村へ申達ニ依テ各自ニ出セルモノナリ且文中ニ云テモ猶各村別區所有支配ナルヲ溢レタリ

辛 一土砂届普清届書

壬

一子八月ヨリ淀土砂方被仰付候  
普清出来年々書上扣帖

癸 一第芝葉届書上扣

一河州交野郡穂谷芝葉改帖  
一河州交野郡穂谷村藤改帖

夏

石原谷郷谷六ヶ年先山普清有之候



秋

築前百切間敷高ヤ相改候扣

文化六己年ヨリ当年迄六ケ年間春秋普請致候

通書付御奉行所へ差出候下帖面ノ扣

右ノ如ク年々土砂苗ノ為ニ普請セシニ即

各村別區ニ之ヲ為セリ

土砂苗普請ハ毎年春秋兩度ナリ故ニ見分モ亦

同シ係シ年々ノ分且敷年取調ノ分多類<sup>敷</sup>有リト

イハレ反テテ繁雜ニ付悉ク奉ケス

冬

一山内土砂苗御普請御休場相成候扣帖

是一村ノ權ヲ以テ己ニ普請ニ及ハシルヲ

取極以テ此願ヲナシタルモノナリ而シテ

其願文非受書ニ私共村領山内云々ト有之

申渡書ニ其方共村領山内云々トアリ

木

一土砂奉行巡回書上ケ



是各村別區ナルヲ以テ即別區御改トナリ  
タル故各村ヨリ如此書上ケヲナセシモノ  
ナリ

火

一山内出火届書

此届ヲナスモ亦已レ一村ノ所有山ニ係ル  
ヲ以テナリ

土

一他村ヨリ差入タル伏木説一札

此第一ノ一札ニ其元殿所持ノ字大岩云  
ニトアリ此所持ニ即此初ノ甲乙兩条ニ云  
ヘルガ如ク其村内ニテ又所有主アリシカ  
故也而シテ其差入タル者ニ津田村ノ者ニ  
シテ殊ニ同村ノ者取扱ヲナシ連印セリ現  
今津田村代言人ノ云ヘルガ如クナレハ何  
ソ如此一札ヲ入ル、了有シヤ

第二ノ文ニハ長尾村持山ニテ云ト有之

金

一津田村ノ者山内伐荒訖一件

此訖ヲナスノ原素ハ即己レカ村領支配ノ

山内ヲ伐荒ナルヲ以テナリ而シテ願書

ニ穂谷村支配ノ存ヘ云ト有之罪科申渡

書ニ穂谷村支配山林へ罷越ト有之此願ハ

乃其山領主へ出し其領主ノ處分ナルガ右

ノ通り申渡書ニ奉ルヲ以テモ現地ハ各村

別區支配ナルヲ明カナリ

水

一樹木盜伐訖訟書類

是亦津田村ノ者共盜伐セシヲ訖ヘタル者

ナリ而シテ右訖ヲ出セシハ三所ナリ一ハ

淀土砦方是ハ土砦ニ關係スルヲ以テナリ一ハ島山殿一

ハ久貝殿也共ニ津田村領主ナリ伐木セシ者而領主ノ下ニ濟レハナリ

而シテ久具殿ハ又山領主ナリ此許ル所ノ  
意原素モ亦前ニ曰シ又共ニ当村支配云々  
ノ明文アリ領主之ヲ以テ此事ヲ受理セラ  
レタリ

ノ二十冊 本紙並ニ年来村役人ノ公務ニ係ル  
記録帖向ニ記載セシ公正ノモノナリ

右夫ニ一切通シテ殊ニ奉ル所ノ明文ハ勿論 各村別區所有

支配ナルヲ明瞭タリ以テ証スルニ猶ホ餘リ有  
之候

明治九年一月十九日

被告代人

中西 盾 雄

浙り書

右差出タル二十冊ノ本紙ハ別ニ扣  
ヲナサス即チ村々ニ在ルモノニテ  
其本紙ニ甲乙別ケニシテ番号ヲ入  
レ札附ケ有之ニ付後日一纏ニセン  
ト欲セハ自由ニ写スヘシ  
其外土砂畱一札ノ存享保四年總谷  
村ヨリ差出タル一札ノ未ニ

右文中ノ末ニ可ノ一字脱有之ト相見  
ハ候依テ文政度御達ニ相成候雖形ヲ  
奉ケ相正シ候事

右ノ通認テ其全文ヲ奉ゲタリ

同正徳五年六ヶ村ヨリ差出タル一  
札ノ末ニ

右文中ノ末御座候ハコノ下ニ如何様

共可被仰付爲ト欲有之候ヲ誤脱致シ  
候様相見候ハ共村方ノ日記様リニ改  
メ能ハス其俵字置候事

ト認ノタリ



土畝苗御褒養御礼并地頭役所へノ届

書

四枚

乍忍御礼

久貝甚三郎殿知行処

河州文野郡

杉村

一当村土畝苗年入ノ儀寛政ノ度ヨリ追々普請  
土積仕候段達御聽へニ急御褒養村方へ鳥目



拾五ノ文被下置冥加至極重、難有奉頂戴候  
右乍恐御礼奉申上候

文政十三年

右村年寄

寅十二月廿五日

八郎兵衛

日村庄屋

又兵衛

淀

御奉行様

乍恐御届聲申上候

杉村

一当村土研苗争入之儀寛政中ヨリ普請仕  
候殿達御聽工此度村方一為御褒養鳥目拾五  
貫文被下置候間重々難有奉頂戴候ニ付右之  
殿御断奉申上候以上

文政十三年

右村年寄

寅十二月三日

八郎兵衛印

可断庄屋

吉左衛門印

日断

又兵衛印

長尾

御役所

藤坂村福岡村当时長尾村領境界繪圖

書下

藤坂村福岡村領境之事古殿棟御代ニ繪圖而被  
仰付境目ニ銀筋被措置候自今以後此〇相心得  
可申候為證文判形如此候

寛文元年

久貝彌古衛門外

丑丑月日

岡田加兵衛印

名和藤右衛門印

倉田勘左衛門印

本多八郎右衛門印

高橋彦右衛門印

河州文野郡福岡村

左屋百姓中

藤坂村二七右回掾一有之候事

丑年御藏勘定

一米二百石一石八斗七升五合 外 米

一回六石三斗五升六合 口 米

ノ 二百拾八石二斗三升一合

外

一一石 庄屋宿米

一一石五斗 年寄三人宿米

一二斗 山廻宿米

外書數庫有レ共畧入

ノ五拾三石四斗四升九合

引残而

百六拾四石七斗八升二合

外百石

御拂米

残而

四石七斗八升二合

銀<sup>三</sup>付  
御陳家<sup>外</sup>

右之通相違無御座候以上

文化十四丑年十二月

長尾村庄屋

栄 載印

年寄三人連名印

島海久七郎 掾

大橋左太郎 掾

表書之通相違無之候

丑十二月 身海久七郎印

大橋左太郎印

寅年御物成勘定目録

一四拾四石六斗三升二合 本米

一一石三斗三升九合 口米

一四拾五石九斗七升一合

外一石 庄屋宿

日五斗 羊寄宿

日一斗 山廻り宿

外書敷庫下共畧ス



小ノ二石五斗二升七合

右之通相違無御座候

文政十三年寅十二月日

杉村在屋

吉左衛門印

年寄 八郎兵衛印

長尾

御役所

表書之通相違無之候

寅十二月 大橋左太郎印

杉浦三吾印

丑年御藏勘定目録

一米三百四石三斗七升二合七勺

御收貯米

一米九石一斗三升一合五勺

御口米

合三百拾三石五斗四合二勺

内一石

在屋一人宛

内二石

年寄四人宛

一斗

山廻り宛

内書数廉アレ共畧ス

ノ六石四斗四升九合

差引勘定畧ス

右之通当丑年御嶽勘定相違無御座候以上

嘉永六丑年

三月

藤坂村

年寄 藤三郎印

外三人連印

預リ在屋

津田村

前川匠三郎印

長尾

御役所

表書之通相違無之モノ也

丑十二月

小柳鎮之助印

友田元三郎印

一札

一字高野道新開私引請之場所用水手宛無之ニ  
付地流山ハニ而用水溜池三ヶ所築立申度候  
願出候處今般大庄屋前川近三郎殿取候ヲ以  
和談相整右場所一月御見分之上池地並地流  
山内共引受知定左之通

一南ノ巻着ニ番ニ番ノ間際目入廻候ニ付三番  
地面堤ノ方ノ東セスニ南ノ方越夫ノ西手山

办不残

一 三番之荒用水滔

三 反

一 四番之荒田

二 反立畝

右池地用水滔込候節、谷筋之儀、際目ノ奥

一水サシ込候、共其儀、一畝ニ付玄米七石

之割合ニ兩年々相納可申候七際目見斗石ヲ

伏置夫ノ奥、村方支配地ニ相違無之候ニ付

御カ、而モ山林伐取候儀、勿論都而自修之儀

一切仕間鋪候事

一 三番四番之間當時山地凡三反步谷筋際目相

改候場所、西手不残

一 八番之東地荒ニ而用水滔壹畝

右、自然用水滔出来不申候共畑地亦ニ開キ

候儀、次而仕間敷候

右之通り夫ノ場所見定被下差障リ之儀、無

御座候得共猶亦向後違丸無之抹際目津筋ヲ

立候上ハ際目之外々モ自依之儀仕間鋪候也  
右引受地所横物成トシテ毎年十一月七日限  
亥米壺石宛急度相納可申候且又普請取掛り  
候節土砂方差障リ之不相成掾兼而相心得可  
申其外規定之通永々無違失相守可申候為後  
證差入申一札依而如件

文久二年三月

彦太郎 印

前書之通り拙者取爰相違無之候ニ付爰書

調印致候以上

大庄屋

津田村

前川近三郎 印

庄屋  
年寄  
中



覺

其村方字大地用水溜増方並南堤手薄二付山方  
置原附普請儀一昨丑年中願之上藤坂村領田及  
別六及四畝捨九步御高三石二斗三升二合口村  
ノ對談ニ及ヒ右御田地讓受池床ノ田込用水溜  
増並南堤一圍山高置原付共此節皆出来ニ付及  
見分候所何リモ丈夫ニ普請出来立一殿之事ニ  
候右ニ付藤坂領濱ノ地御年貢米御引ノ方且

普請入用御下金亦之儀願出無余儀筋ニ候得共  
御節柄御物入多ノ事柄都而御行届難被成依而  
右ニ村普請ニ被仰付潰御田地御年貢之儀ニ御  
出格之取ヲ以字北山ノ内藤谷凡及別五町余右  
上納方爲手宛惣百姓共割持ニ被仰付外ニ前条  
田面譲受入用之内ニ此度銀ニ招貫目御下被成  
下候間此旨難有美知可致候也西堤之儀手薄  
之場所ニ有之候ニ付猶又村普請ニ被仰付候条

此上入念丈夫ニ普請可致候

享應三卯年

武田元三郎印

四月

小柳鎮之助印

庄屋

年寄

惣百姓

一日上

長尾村柿木谷外ニケ處畑山成之事

三千二百九十六番  
字柿木谷

一畑山成七反五畝三升 逢坂幸三郎

元下畑二反壹畝半 貞米二斗壹升

見取帖

柿木谷  
一下畑二反壹畝 此取二斗壹升 茂右衛門

三千二百九十五番  
口新

一畑山成四及四畝五步 逢坂章三郎

元下畑五畝六步 貢米五升

同下畑五畝九步 貢米五升

同下畑五畝七步 貢米五升七合

ノ三筆

見取帖

一稀小谷下畑五畝 此取五升 茂右衛門

一日下畑五畝九步 此取二升 日人

一日下畑五畝七步 此取五升七合 日人

三十三百六十番  
字車谷東

一畑山成二及五畝十三步 甚田傳三郎

元下畑五畝六步 貢米五升二合

見取帖

一車谷東下畑五畝六步 此取五升二合 茂右衛門

三千三百六十八番  
口折

一畑山成巻及七畝十五歩 益田傳三郎

見取帖

一下畑三畝五歩 比取三升三合 茂右衛門

元下畑四畝歩 貢米四升

口下畑九七歩 貢米九合

口下畑壹畝十三歩 貢米壹升四合

口下畑七畝歩 貢米七升

口下畑三畝十二歩 貢米三升四合

口下畑三畝七七歩 貢米三升九合

ノ六葉

見取帖

車谷東  
一下畑四畝 比取四升 茂右衛門

口 一下畑九七七歩 比取九合 口 人

口 一下畑壹畝十三歩 比取壹升四合 口 人

口 一下畑七畝 比取七升 口 人



一曰 下畑三畝十五步 此取三并四畝 曰 人  
一曰 下畑三畝十五步 此取三并九畝 曰 人

三千五百八十九番  
字登ヶ谷

一畑山成八及八畝七毫步 藤野常三郎

元下畑七畝七步 貢米七并

口下畑九畝十五步 貢米九并五畝

見取 帖

一下畑七畝 此取七并 安兵衛

一下畑九畝十五步 此取九并五畝 曰 人

右荒蕪 = 屬候ハ十五六年乃至六七年以前ヨリ

ノ後ニ御座候最モ未タ御切替無之候ニ付年貢

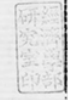
之後ハ昨年迄其候ニテ相辨申候

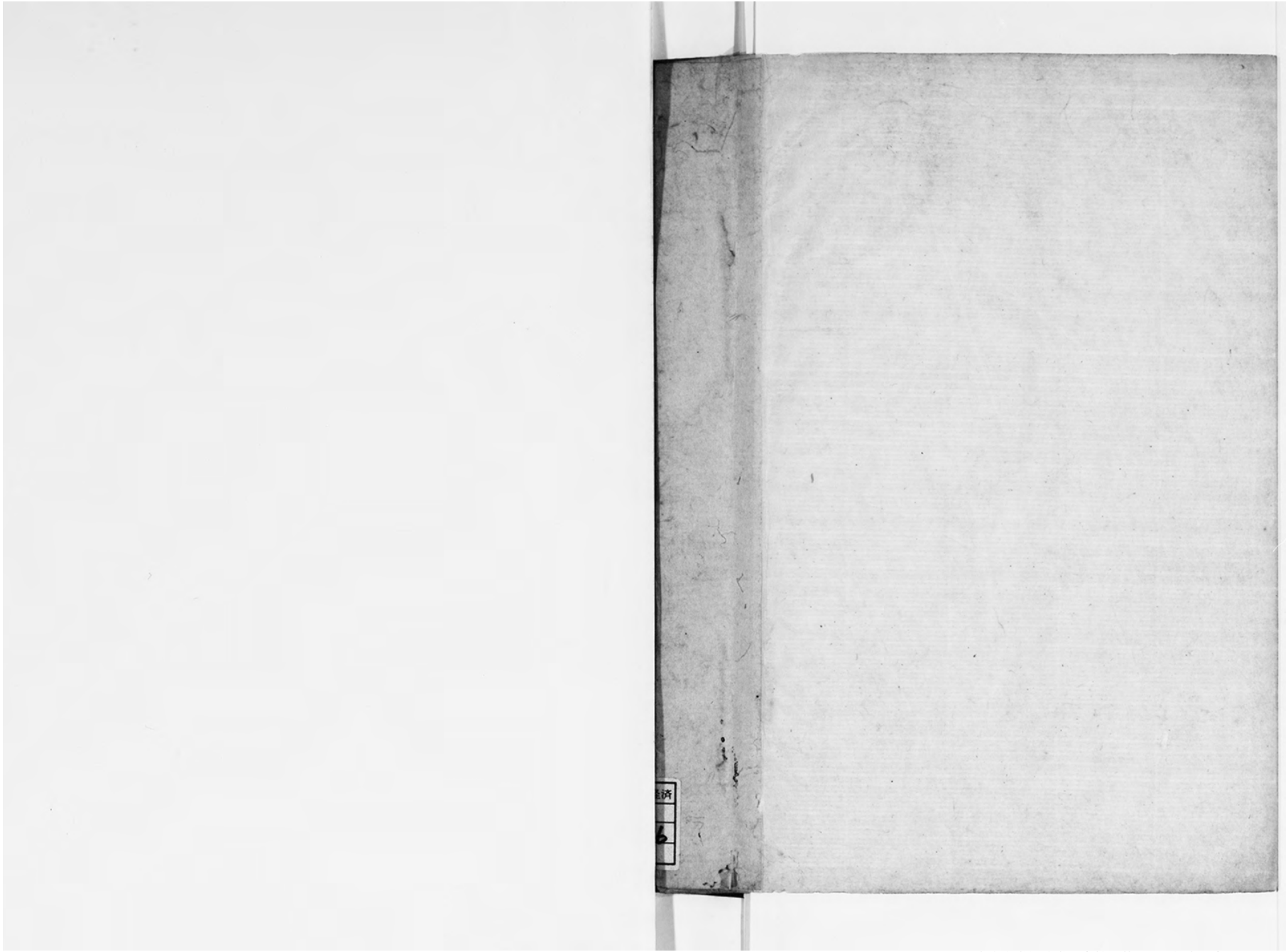
右之通ニ御坐候以上

明治九年三月十九日

被告代理人

中西盾雄





経済